

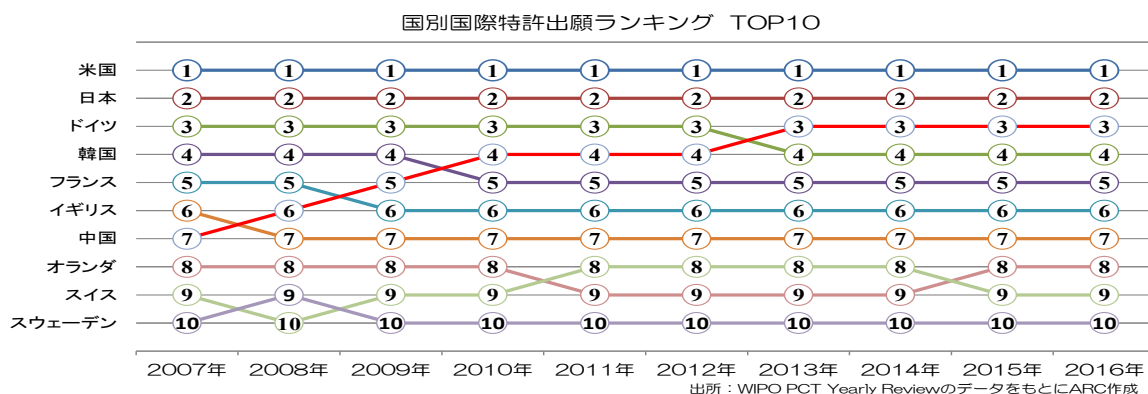
技術立国へと変貌しつつある中国

◆2017年1～3月期のGDP成長率は前年同期比6.9%増と拡大基調に

国家統計局の発表した17年1～3月期のGDP（国内総生産）成長率は、前年同期比6.9%増となり、2四半期連続拡大（前々期6.7%増、前期6.8%増）となった。ただ、インフラ投資が前年同期比23.5%増と固定資産投資全体の9.2%の伸びを大幅に上回っており、政府の大規模な景気刺激策によるところが大きいといえる。インフラ投資では、環境保護関係が48.1%の大幅増、交通インフラ関係も20.2%増となっている点が注目される。一方消費をあらわす社会消費品小売総額が前年同期比10%増と自動車取得減税の減額の影響などでやや伸び悩んだが、ネット通販が同32.1%増と好調を維持している。また、14年に前年比18.1%増、15年同10.5%増だった民間投資は、16年1～8月期には前年同期比2.1%増にまで落ち込んでいたが、9月以降回復基調となり通年で前年比3.2%増、さらに17年1～3月期には前年同期比7.7%増にまで回復している。民間の活力を如何に取り込んでいくかが中期的な中国経済の課題であり、この点で明るい材料だ。

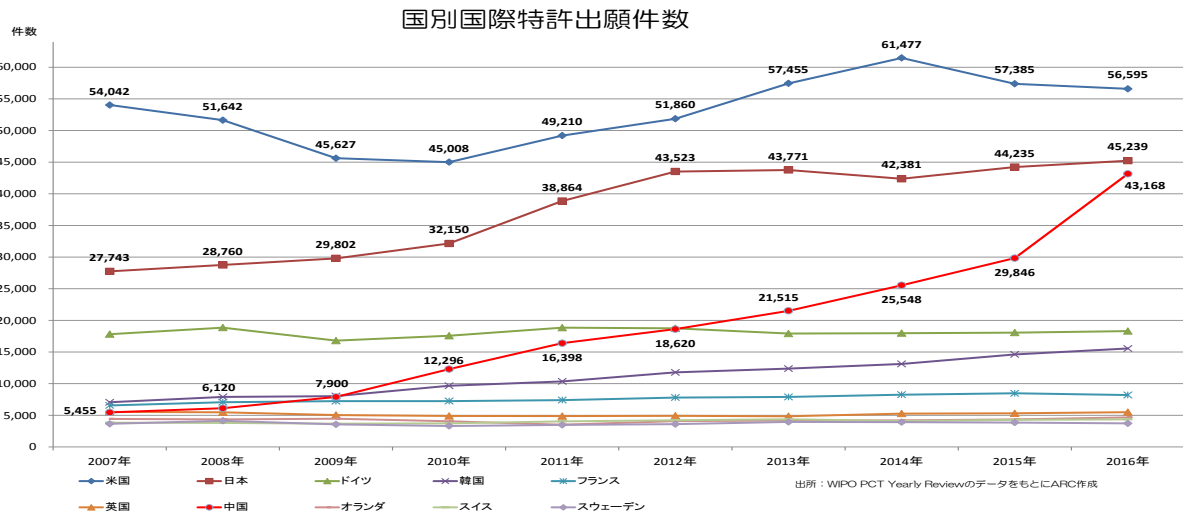
◆製造強国に向けて着実に歩みを進める中国

15年5月に中国政府は「中国製造2025」という、今後10年間の製造業発展のロードマップ（行程表）を発表した。李克強総理がとなえる「大衆創業・万衆創新（大衆による起業・革新）」のスローガンのもと、製造強国へと国をあげて産業の革新を進めつつある。その足跡をWIPOの国際特許出願件数からも見て取るこ



ハイライト

とができる。07年に出願数で7位だった中国は、英国、フランス、韓国を抜き、13年にドイツを抜いて第3位となった。その後も出願件数を順調に伸ばし、16年には出願件数で日本とほぼ肩を並べるまでになっている。



また16年の国際特許出願企業上位10社の中には、以下の表のように中国企業3社がランクインしている。1位のZTE（中興通迅）と2位のファーウェイ（華為）は通信設備や通信端末の分野を中心にグローバル展開しているハイテク企業で、8位のBOE（京東方科技）は大型液晶パネルの生産枚数で世界最大手の企業だ。

50位までをみても12年に2社だったものが、13年3社、14年6社、15年7社と上位にランクインする企業数も徐々に増えている。

国際特許出願企業 TOP10

	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
1位	パナソニック (中国)	ファーウェイ (中国)	パナソニック (日本)	パナソニック (日本)	ZTE (中国)	ZTE (中国)	パナソニック (日本)	ファーウェイ (中国)	ファーウェイ (中国)	ZTE (中国)
2位	フィリップス (オランダ)	パナソニック (中国)	ファーウェイ (中国)	ZTE (中国)	パナソニック (日本)	パナソニック (中国)	ZTE (中国)	クアルコム (米国)	クアルコム (米国)	ファーウェイ (中国)
3位	シーメンス (オランダ)	フィリップス (オランダ)	ボッシュ (ドイツ)	クアルコム (米国)	ファーウェイ (中国)	シャープ (日本)	ファーウェイ (中国)	ZTE (中国)	ZTE (中国)	クアルコム (米国)
4位	ファーウェイ (中国)	トヨタ (日本)	フィリップス (オランダ)	ファーウェイ (中国)	シャープ (日本)	ファーウェイ (中国)	クアルコム (米国)	パナソニック (日本)	サムスン (韓国)	三菱電機 (日本)
5位	ボッシュ (ドイツ)	ボッシュ (ドイツ)	クアルコム (米国)	フィリップス (オランダ)	ボッシュ (ドイツ)	ボッシュ (ドイツ)	インテル (米国)	三菱電機 (日本)	三菱電機 (日本)	LG (韓国)
6位	トヨタ (日本)	シーメンス (ドイツ)	エリクソン (スウェーデン)	ボッシュ (ドイツ)	クアルコム (米国)	トヨタ (日本)	シャープ (日本)	インテル (米国)	エリクソン (スウェーデン)	ヒューレット・パッカード (米国)
7位	クアルコム (米国)	ノキア (フィンランド)	LG (韓国)	LG (韓国)	トヨタ (日本)	クアルコム (米国)	ボッシュ (ドイツ)	エリクソン (スウェーデン)	LG (韓国)	インテル (米国)
8位	マイクロソフト (米国)	LG (韓国)	NEC (日本)	シャープ (日本)	LG (韓国)	シーメンス (ドイツ)	トヨタ (日本)	マイクロソフト (米国)	ソニー (日本)	BOE (中国)
9位	ノキア (フィンランド)	エリクソン (スウェーデン)	トヨタ (日本)	エリクソン (スウェーデン)	フィリップス (オランダ)	フィリップス (オランダ)	エリクソン (スウェーデン)	シーメンス (ドイツ)	フィリップス (オランダ)	サムスン (韓国)
10位	モトローラ (米国)	富士通 (日本)	シャープ (日本)	NEC (日本)	エリクソン (スウェーデン)	エリクソン (スウェーデン)	フィリップス (オランダ)	フィリップス (オランダ)	ヒューレット・パッカード (米国)	ソニー (日本)

出所：WIPO PCT Yearly ReviewのデータをもとにARC作成

世界のスマートフォンの16年の出荷台数は13.6億台（前年比4.7%増 台湾TrendForce調べ）で、1位サムスン、2位アップル、3位が華為だった。10位までの7社を中国企業が占めている。16年に華為がアップルと結んだクロスライセンス契約では、アップルが華為に特許料を支払っている。中国企業の技術水準は、先端技術分野を中心に上がってきているのは間違いなさそうだ。 【森山博之】